私たちの視察　最終回 2024/2/3～2/6

今回がパガサ最後の視察となり、パガサ基金は、エルダへ移管することとなりました。それを知った現・元奨学生たちは、私たちに様々なサプライズを用意してくれました。手作りの花束、感謝の手紙、覚えたての日本語で感謝の挨拶をしてくれたクリスとアーヴィン。アーヴィンは、私たち１人１人にメッセージと共にスカーフを買って届けてくれました。

これらは、今まで 35 年に渡り、何らかの形でパガサに協力、支援をして下さった皆々様へ向けての支援生たちの精一杯の気持ちであったと思います。支援を受けた子は、弟や妹など下の世代を支援するようになりその輪がどんどん広がって行きます。

あなたがくれたほんの一筋の光、それが、この子たちにとっては、真に希望＝”パガサ“であったことが実感できた視察でした。

↑左から順に

ナオミ　銀行勤務、父母の健康状態も回復中

クリス　「パガサの終了おめでとう」と日本語で挨拶。

ジョシュア　弁護士目指し勉強中女性らしくなった。

アンジェリカ　地域の自治会長も勤める。

ロネル　外務省勤務、外交官を目指す。

2024/2/4 日本人会退職者事務所にて A・B 基金、卒業した支援生ら 17 名と面談

コロナパンデミックは、子どもたちに多大な影響を与えました。リモート学習は、ネット環境のないスラム街の子には至難の業であったり、せっかく就職できたのに離職を余儀なくさせられたり等々。

しかし、今回、そこから立ち上がりつつある彼らのたくましさを目の当たりにしました。大学を卒業した支援生たちは、以前からボランティアでストリートチルドレンに勉強を教えていましたが、今は、リモート学習の補習をしてあげていました。会社が休業になった為、仕方なく小さな事業を始めたら、それが当たり車を買えるまでになったなど、互いに助け合う気持ちと、転んでもただでは起きない不屈の精神に感動しました。

←左から
ロネル　教科書会社勤務、エルダで子どもたちに勉強を教えている。
ヴァージニア　高校教師、大学院に行きたい。
マリソル　陸運局顧客対応技術サポート課
車両、免許証登録の IT 化を推進。

←セレステ　教師をしていたが、昨年からエルダの技術アシスタントとして働いている。セレステの机＠エルダのオフィスにて。

マージョン→
妻と5才の息子セバスチャンを連れて来てくれました。

←ダニカと夫、娘ベラ１才半
仕事を得、家族を得、今の自分があるのは、教育支援のおかげ。人生が変わったと。

アーヴィンと彼女→
副業が成功し、7 人乗りのトヨタ車を購入。来年結婚予定。

2024/2/3 比日会館にて、アジア婦人友好会支援の 5 名と面談

前回視察時、あどけない声で歌を歌ってくれたレナリン。大人びた少女になり、ソプラノの美声を聞かせてくれました。今日 2 月 3 日は、リーンの誕生日。皆でおめでとうと伝えました。
アルハンドラは、18 才。この 7 月に高校卒業予定。会計学を学びたいので、大学へ志願中。
サマンサは数学教師志望。クリスタは会計士志望。皆、対面式授業が再開されて、理解し易くなったと安堵していました。

↑レナリン、リーン、アルハンドラ
↓サマンサ、クリスタ

パガサの会代表より

　2013年に代表を引き継いだ当初、基金は利息と共に元本を取り崩し、活動終了までに使い切ることを考えておりました。しかし、それはいくつかの点で現実的でないことが解りました。まず、子供たちが学校に通い続けるためのきめ細かな支援に不可欠なソシアルワーカーが人的資源の点から思うように増やせないということがありました。また、支援生についても、いたずらに数を求めると質が保てなくなり、最悪ドロップアウトしてしまった場合には、そこまでの支援が水の泡になってしまいます。更に、一度パガサの基金で支援を始めた学生を途中で放り出してしまうことはできないので、多少の環境の変化にも資金が途中で尽きることのないよう、備える必要があります。

　結果として、具体的には2つの大きな変化がありました。まず、2017年にフィリピンの学制が変更され、従来中学高校が4年間だったところ、日本と同様の6年間になり、B基金の人数が大幅に増加しました。さらに、大学生を対象とするC基金で、当初理系の学生にのみコンピューターを支給していたところ、コロナによるパンデミックで遠隔授業が多くなったことから全員に支給することが必要となりました。支給にあたっては、サポートを依頼し、適切な機種を選定することでコストを抑えたものの、本来の支援額に加えて購入費用を支出いたしました。

　こうして、毎年の支援の決定にあたっては、どうしたら託されたお金を効果的に使うことができるか模索を続けた結果、エルダ財団との協働が良好に保てたこともあり、質量ともに良い支援ができたのではないかと考えております。また、昨年 4 月末の時点で ABC 基金をあわせて約2，072万円の残高となり、契約に従ってエルダ財団に移管されました。別にご紹介するエルダ財団の理事であるドローからのレターによれば、今後はこの資金をパガサ基金として管理し、利息のみを使用して教育支援を継続することにより、長く活用していくとのことです。

　今回の訪比でも多くの支援生、元支援生が集まってくれ、私共の長年の活動の豊かな実りを実感することができました。更に、このような支援を今後も続けていくことができるのは本当に嬉しいことです。改めて、皆様からいただきました暖かなご支援、ご助力に心から感謝申し上げます。

　2024年3月吉日　　代表　東島雅子